



企業のためのがん就労支援マニュアル 病気になっても働き続けることができる職場づくり

編著：高橋 都、森 晃爾、錦戸典子 発行：労働調査会 定価：(1,400円+税)

「病名で決めつけるのはよくないですよ」職場に提出される診断書について人事担当者にししばし助言するフレーズである。特に「がん」

はその典型で、部位、種類、進行度などにより治療法や予後は大きく異なり、就業の可否や職場での配慮事項を病名だけで判断することはできない。

近年「がんは死ぬ病気」「抗がん剤治療中は働けない」というイメージは過去のものになりつつある。2人に1人がかかる時代に働く意欲と能力のあるがん就労者が、本人の意に反して離職せざるを得ないあるいは能力が十分生かされない職場環境は、企業

としても大きな損失である。

今年2月に厚生労働省から「事業場における治療と職業生活の両立支援のためのガイドライン」が公表された。本書は、同ガイドラインに沿った両立支援策を検討する際に、職場が直面する課題である規則・マニュアル作成、個人情報管理、関係者間の連携方法といった体制づくりや担当者と場面を想定した実際の支援方法と手順などが、簡潔かつ具体的にまとめられている。人事担当者や産業保健スタッフが日頃の実務ですぐに利用できる内容であり、大企業だけでなくこれから対策を立てるといふ多くの中小企業関係者に手に取ってほしい一冊である。

城戸尚治(城戸産業医事務所)



メンタル・タフネス はたらく人の折れない心の育て方

著者：下野淳子 発行：経団連出版 定価：(1,300円+税)

自己効力感・レジリエンス・ウェルビーイング。どこかで耳にしたことも多いけれど、今さら聞けない的言

葉。そんな「こころを強くする味方」をわかりやすく解説した書である。こころの修理屋たる精神科医、こころの見張り役たる産業医は、ひととおりの学習はすれども、必ずしもこうした「こころを強くする味方」には得意ではない向きも多い。本書の著者は、永年の海外生活経験を基礎として海外赴任者を送り出す赴任者研修をコーディネートするなかで、海外赴任というストレスフルな場面で「こ

ころを強くする味方」の必要性にめざめ、自身のセミナーでも伝える役目を果たされている。その視点は必要から生じた利用者の目線であり、それだけに実用的な視点からわかりやすい紹介となっている。

本書を手にとったら、目次に目を通し、じっくり来そうな、あるいはどこかで聞いたことのある章からめくってゆくとよいだろう。希望・自己効力感・レジリエンス・楽観性・ウェルビーイング。どこかで見たことがあるけれどよく知らない相手が、あなたの業務に彩をそえてくれる味方になってくれる、そんな本だと思う。

勝田吉彰(関西福祉大学 教授)